

食中毒における病因物質の概要 (2013 年度)

石原 雅行、松本 文昭、西村 隼人、北川 由美香、浦山 みどり、右田 雄二

Prevalence and Etiological Agents of Food Poisoning in Nagasaki Prefecture (2013)

Masayuki ISHIHARA, Fumiaki MATSUMOTO, Hayato NISHIMURA,
Yumika KITAGAWA, Midori URAYAMA and Yuji MIGITA

key words: Food poisoning, *Norovirus*, *Staphylococcus aureus*

キーワード: 食中毒、ノロウイルス、黄色ブドウ球菌

はじめに

1997 年 5 月 30 日の食品衛生法施行規則の改正でノロウイルス (2003 年 8 月 29 日同規則改正で小型球形ウイルスから名称変更) およびその他のウイルスと腸管出血性大腸菌 (VT 産生) が、1999 年 12 月 28 日には同規則改正によりコレラ菌、赤痢菌、チフス菌、パラチフス A 菌が、2012 年 12 月 28 日にはクドア、サルコシステイス、アニサキス、およびその他の寄生虫が食中毒事件票に病因物質として追加された。これらの施行規則の改正により、ウイルス性食中毒が位置づけられるとともに、コレラ菌等の 4 菌種についても飲食に起因する健康被害発生時は、他の食中毒病因物質と同じ措置がとられるようになった。

本報告では、2001 年以降に長崎県下で発生した食中毒の主要病因物質の経年推移と 2013 年度に発生した本県食中毒事例で検出された病因物質について報告する。

調査方法

主要病因物質の経年推移

長崎県生活衛生課が取りまとめた 2001 年～2013 年の食中毒発生状況一覧表 (長崎市及び佐世保市の発生届出分含む) をもとに、主要病因物質 (細菌、ウイルス、自然毒及び化学物質等) ごとに事件数および患者数を集計した。

2013 年度病因物質の概要

各々の食中毒事例について、患者からの聞き取り情報、喫食状況および細菌検査情報を県内の所轄保健所から収集した。

結果及び考察

主要病因物質の経年推移

2001 年以降 2013 年までの本県において発生した食中毒の病因物質ごとの事例数及び患者数の推移を図 1 及び図 2 に示した。

2004 年までは、細菌性食中毒の中で *Salmonella enterica* subsp. *enterica* (サルモネラ属菌) と *Vibrio parahaemolyticus* (腸炎ビブリオ) は常に主要な病因物質であった。ところが、2005 年以降、サルモネラ属菌による食中毒は頻出血清型であった Enteritidis の検出頻度の減少に伴い、事例数及び患者数に減少傾向がみられた。腸炎ビブリオも同様の傾向を示した。

Campylobacter spp. (カンピロバクター属) による食中毒は 2001 年よりほぼ継続して発生し、2012 年は発生が認められなかったものの、2013 年には 2 例発生した。

黄色ブドウ球菌による食中毒は、2006、2009、2010 年を除いて散発的に発生している。

ノロウイルスによる食中毒事例は 2001 年以降、毎年発生し、2003 年および 2007 年はそれぞれ 790 名、379 名にのぼる大規模発生があったために患者数が突出したものの、2007 年以降、患者数は 20～162 名で横這い傾向を示している。

自然毒食中毒の大部分はフグの喫食によるテトロドトキシン中毒で、死者が発生する年もみられる。本県では自家調理による発生事例が大半を占め、2005 年にはフグ毒による 7 例全てがこれに該当した。2009 年および 2010 年には自然毒による食中毒の発生はみられなかったが、2011 年に 3 例、2012 年に 1 例、2013 年に 1 例と継続して発生が見られている。

全国の食中毒の事件数および患者数は¹⁾、サルモネラ属菌によるものは、2001 年の 360 件、4,912 名から 2013 年

には 34 件, 861 名に減少し, 腸炎ピブリオによるものも, 2001 年の 308 件, 3,065 名から 2013 年には 9 件, 164 名と大幅に減少している。一方, カンピロバクター属による食中毒は, 2001 年以降, 事例数は 266 ~ 645 件, 患者数は 1,834 ~ 3,439 名の発生が見られたものの, 2009 年以降は 2,000 名程度で推移している。ノロウイルスは, 1997 年 5 月に病因物質に追加されて以来, 事例数及び患者数は増加傾向を示し, 2006 年以降ノロウイルスの患者数は細菌性食中毒の患者総数を上回った。2013 年は患者総数が 12,672 名に及び, 食中毒の最も主要な病因物質となっている。

本県の病因物質の経年推移も全国の発生傾向とほぼ同様の傾向を示した。

2013 年度の病因物質の概要

長崎県内では, 10 事例の食中毒の発生があった。発生事例の内訳を病因物質区分ごとに示す(表 1)。

1) 細菌性食中毒

毒素原性大腸菌によるものは 1 事例, 128 名の患者が発生し, 患者及び従事者から O6, O169 の何れかまたは両方の血清型が検出された。黄色ブドウ球菌によるものは 2 事例, 患者総数は 56 名であった。原因食品は 2 事例とも弁当と推定された。カンピロバクター・ジェジュニによるものは 2 事例, 患者総数は 14 名であった。原因食品は何れも不明だった。

2) ウイルス性食中毒

2013 年度は, ノロウイルスによると推定される食中毒の発生は見られなかった。

3) 自然毒食中毒

自然毒による食中毒は, テトロドトキシン中毒が 2 事例発生した。原因は, ふぐの卵巣, ヒガンフグの自家調理によるものだった。

4) その他

ヒラメ刺身の喫食に伴い, クドア・セプテンブクタータによる食中毒事例が 1 例発生した。

昨年度の食中毒件数が 11 事例だったのに対し, 今年度は 10 事例とほぼ同程度の発生数であった。ノロウイルスによる食中毒発生は見られなかったものの, 細菌性食中毒は昨年度の 3 例から 5 例に増加し, 患者総数も昨年度は 184 名だったのに対し今年度は 245 名に上った。自然毒食中毒は昨年度の 1 例から 2 例に増加した。フグ等の有毒魚類を自家調理しないこと, 食中毒は季節を問わずに発生するという意識をもつことが重要であると考えられる。

謝 辞

本稿を草するにあたり, 種々の情報を提供していただいた長崎県生活衛生課, 長崎市, 佐世保市および長崎県立各保健所の関係諸氏に感謝する。

参 考 文 献

1) 厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課: 厚生労働省食中毒統計 2001 年 - 2013 年 (2013)

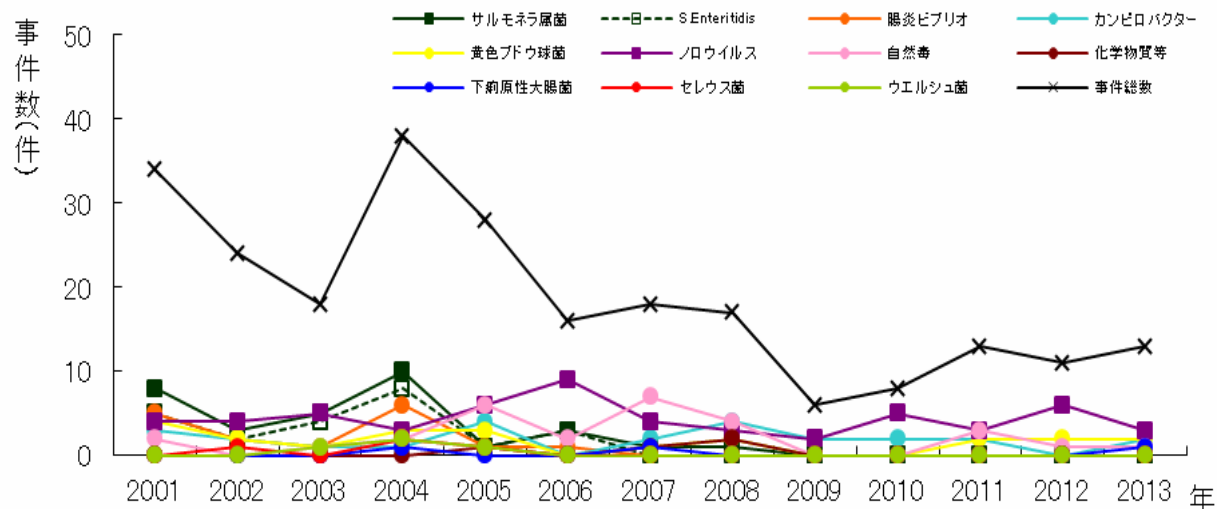


図1 病因物質ごとの食中毒事件数の推移(長崎県)

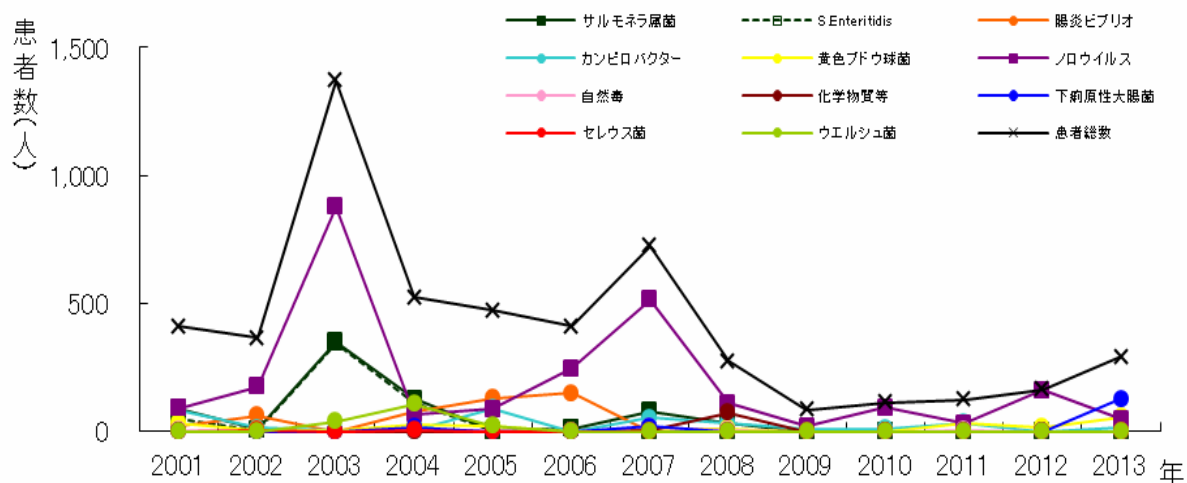


図2 病因物質ごとの食中毒患者数の推移(長崎県)

表1 長崎県内の食中毒発生状況および病原因物質

事例 No.	発生年月日	発生場所	取扱保健所	摂食者数	患者数	死者数	原因施設	摂食場所	原因食品	検出病原因物質	検体(由来)	病原因物質検出数	備考
1	H25.4.21	壱岐市	壱岐	8	5	0	飲食店(簡易宿所) 事業場	飲食店(簡易宿所)	不明	不明	(有症者糞便) (従事者糞便)	0/3 0/2	O169 (ST) 5名, O6 (ST+LT)/O169 (ST) 4名, O6 (ST) 2名, O6 (ST+LT) 2名, O6 (ST)/O169 (ST) 1名
2	H25.5.15	雲仙市	県南	350	128	0	(飲食店) 事業場等	事業場等	不明	O6/O169	(従事者糞便)	9/41	O169 (ST) 7名, O6 (ST+LT)/O169 (ST) 1名, O6 (ST+LT)/O6 (ST)/O169 (ST) 1名,
3	H25.5.28	佐世保市	佐世保市	24	10	0	飲食店(旅館)	飲食店(旅館)	ヒラメの刺身	クドア・セブテン ブククタータ	(有症者糞便) (従事者糞便)	9月10日	Penner血清型別: L群 7名, UT 2名
4	H25.6.11	諫早市	県央	24	11	0	飲食店(一般食堂) 飲食店(弁当)	飲食店(一般食堂) その他	不明 弁当	カンピロバクター ・ジエジュニ 黄色ブドウ球菌	(有症者糞便) (従事者糞便)	0/3	
5	H25.8.4	長崎市	長崎市	337	34	0	飲食店(弁当)	その他	弁当	黄色ブドウ球菌	(有症者糞便)		
6	H25.10.21	佐世保市	佐世保市	5	3	0	飲食店	飲食店	不明	カンピロバクター ・ジエジュニ	(有症者糞便)		
7	H25.10.27	対馬市	対馬	88	22	0	飲食店	飲食店	不明	カンピロバクター ・ジエジュニ	(有症者糞便)	8月8日	コアグラーゼ 型, エンテロトキシン A+B
8	H25.11.29	大村市	県央	77	29	0	飲食店(料理店)	飲食店(料理店)	不明	黄色ブドウ球菌	(従事者糞便)	1月1日	コアグラーゼ 型, エンテロトキシン A+B
9	H26.1.20	佐世保市	佐世保市	1	1	0	家庭	家庭	ふくの卵巣	テトロトキシン	(食品) (有症者糞便)	5月5日	コアグラーゼ 型, エンテロトキシン A+B
10	H26.2.3	雲仙市	県南	2	2	0	家庭	家庭	ヒガンフグ	テトロトキシン	(食品) (従事者糞便)	0/10 0/8 0/1	

本表は、県民生活部生活衛生課の食中毒発生状況一覧表(長崎市、佐世保市発生分含む)から作成した。病原因物質検出数は、保健所(長崎市及び佐世保市を除く)からの検査依頼数に対する病原体検出数で示した。